

[日時]2022/5/11

[場所]3A204 Microsoft Teams

[出欠]出席 61 遅刻 3 早退 1

[議題]令和 3 年度議長団選挙

[資料]

- ・ 22001_第 1 回本会議議事次第
- ・ 22002_令和 4 年度議長団選挙に関して
- ・ 参考資料 1_筑波大学の学生組織等について
- ・ 参考資料 2_筑波大学における学生組織及びクラス連絡会等について

[会議の流れ] 開会→資料確認→出欠確認→議題→採決→委員会報告→その他諸連絡→散会

開会

資料確認

出欠確認

議題

◇森本（議長）

本日の進行について話す。基本的に資料「22002_令和四年度議長団選挙について」のとおりである。この通りに進める。注意事項を述べる。座長団の皆様は候補者に対し、信任、不信任、保留のどれかに投票すること。信任が過半数の場合、その議長または副議長はそれぞれ議長、副議長として選出される。また、不信任が過半数の場合は、本年度の議長団選挙には立候補できない。また、白票、無効票についても定義している。読んでおくこと。本日の信任投票及び決選投票によって選出が完了しない場合には、来週も本会議を実施し、選出が完了するまで議長団選挙を行う。非常に大切な選挙なので、投票をお願いします。

◆河野（人文学類）

こんばんは。この度令和4年度全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議議長に立候補致しました人文学類2年の河野美羽と申します。

本日は議長という立場に立候補するにあたって自身が考える議長という立場についてと、それに基づいて全代会組織というものをどのように考えていくのかについてこの場でお話させて頂きたいと思います。

今回は対面での実施ということでスライドは簡易的なものでお話をさせて頂きます。さて本題に入る前に、これから私は議長候補としてお話をしますが、これは同時に全代会という組織に所属する構成員としての考えでもありますので、今回の私の話す事柄に対して肯定でも否定でも批評でもなんでも構いませんが、同じ構成員として何か考えを以て頂ければ幸いです。

まず、簡単に自己紹介をさせて頂きます。改めて人文学類2年の河野美羽と申します。全代会には1年次より座長団として、総務委員会の方に所属させて頂いております。また人文学類のクラ代として大学説明会や新入生歓迎会に局長として携わり企画・実施を行い、その他文化系サークル連合会や新入生歓迎祭推進委員会の一員として局長として今現在もやらせて頂いております。

このことからお分かりになるかと思いますが、私は昨年度良くも悪くも1つの組織に傾注をして活動を行っていたわけではありません。その中で様々な組織に関わっていく中で、組織というもののシステムや、組み立て方なりを自分なりに学んだつもりですので、そのノウハウを活かしていければと思います。

2つ目の項目へ移ります。自身の議長という立場についてですが、議長というよりは組織の上に立つ人間として重要であると考えていることになります。今回は重要であることに基づいて組織について考えていきたいので簡単に説明させて頂きます。

2点ありまして、1つ目は責任を負うこと、2つ目は常に客観的な立場にいるということです。

1つ目に関しては全代会という組織の最終決断を行うのは議長という立場、広く言えば議長団という立場です。自明なことですが、最終決断をそこで下すということは、そこに全責任が伴うわけですので、組織の上に立つ人間であるのであれば責任を負うことというのは最も重要な仕事であると考えています。

2つ目の常に客観的な立場にあることについてですが、議長というのは勿論自身の仕事をする必要はあるかとは思いますが、しかし、全代会として動くとなった際、実際に動くのは議長団よりも今、ここにいらっしゃる座長団のみなさん、そして個々が所属する委員会であると考えています。故に、私自身が首を突っ込んで先導して何かをしていくというよりは、皆さんが動いていく中で何か詰まった際にアドバイスを挙げたり、皆さんが動きやすいように先生方との話し合いによって動線の確保をしたり、予め道筋をたてておいたりなど簡単に言えば裏方のようなことを行い、常に客観的な立場で俯瞰していくことが大事であると考えています。

以上のことを踏まえて全代会組織の方向性について、私が今年度行っていききたいと考えているのは組織の最適化です。最適化といっても効率化というわけではなく、内部組織の見直しと言った方が近いかと思います。

私自身、全代会についての認知が低いことや、クラス代表者の中から座長が出にくいという問題を話として聞きます。しかし、これは外からの問題ではないと考えています。これは座長団の皆さん1人1人が全代会という組織に対して価値があると思ったうえで、外に発信していく上で初めて価値があると思ってもらえると考えています。ですので、座長団1人1人が構成員として仕事をこなすようにしていきたいと考えています。

例えば、今現在委連会というもので委員長陣の方々とお話を聞く機会がありました。それを通して情報共有を行い、委員長陣で情報を止めるのではなく皆さんに情報を共有する、勿論共有できない情報もあるので全部が全部というのは難しいですが、情報を与えてまずは興味を持ってもらう、意見をしたいと思ってもらえる話題提供をすることをまずは1つの現実的な方法としてやっていきたいと考えています。

最後に繰り返すにはなりますが、私が議長という立場になった際には責任を負うことと客観的な立場に常にいるということは絶対に忘れずに行っていきたいと考えています。そのような理由も含めて主体的や自発的という言葉をよく用いることがあるかと思います。私自身は勿論、皆さん1人1人と全代会という組織をよりよりものにしていきたいと考えておりますので、信任頂けるのであれば精一杯頑張っていきたいと思ひますし、皆さんと頑張っていきたいと思ひます。

長くなりましたが以上で演説の方を終わります。

◆中田（教育環境委員会）

冒頭で話していたように、様々な団体や委員会に所属し、様々な活動をしてきたと思う。その様々な全代会以外の組織に所属したうえで、全代会の長所、または全代会に足りないものなど短所があれば聞きたい。

◇河野（人文）

全代会に力を入れると決めた理由は、学生組織に関わっていく中で、学校全体と関わりを持って何か主体的に行動を自身でしていきたい、あるいは何か活動していきたいと考えたときに、自分が所属していた組織も含めて、活動できるというのが全代会であった。裏方とは言ったが、そういった組織を知っているからこそ裏側で何か、どういった道筋を立てなければならぬのか、あるいは、どういった問題点があるのかというものをあぶりだせるのではないかと考えている。欠点としては、コロナ禍がある程度落ち着き、今はハイブリッド式で本会議を行っていると思うが、対面で本会議を行う意味があるのか、など全代会全体の意識の低下ということが、自分自身も一年生の頃から積極的に関わってこなかったという反省も

踏まえて、あると考えているため、今後どのように問題分析をしていくかを自身が議長になったら考えていきたい。

◆中田（教育環境）

ありがとうございました。

◇榎本（体育専門学類）

学校として国際関連などそういった方向を進めていきたいということを学長から聞いている。留学生に会うこともよくあるが、全代会の間ではあまり外国人を見なかったりするが、そういった意見を取り入れることが必要だと考える。そういったことに関して何か意見はあるか。

◆河野（人文）

回答する。研修会でも国際チームというかたちで動きが行われているように、かなりそのような活動は活発になっている。コロナ禍でも先輩方が関係性を持っていたおかげで外部との関係はとれていると考えている。そういった関係性をより確固としたものにしたいと考えているため、いろいろな意見を取り入れるためには内部からだけではなくそういった外部からの意見も取り入れることは十分承知している。新しくそれに着手するというよりも、今ある何か、活動している方々を支える何かをしていきたいと考えている。

△榎本

ありがとうございました。

採決

◇森本（議長）

信任投票を行う。

信任 58 不信任 1 保留 4 白票 1

信任が過半数を超えているため、立候補した河野を令和 4 年度全代会議長として選出されたことを報告する。

議題

◆森（社会学類）

この度令和4年度全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議の副議長に立候補した社会学類1年の森望です。全代会では調査委員会配属となりました。立候補に至った経緯ですが、1年生が上級生と同じように大学で意見発信ができるようにならないかと考えていたところ、先輩から議長団に誘われたため、これが意見発信する形の1つだろうと考え立候補しました。

演説にあたっては、副議長に1年生が立候補する事について考えられる欠点と利点を述べたいと思います。

まず、考えられる欠点ですが、結論から申し上げますと、知識と経験の不足です。対処法としては、できないことはできないものとして、議長などと役割分担をしていくことが挙げられます。副議長は議事進行の補佐の他に、学内の関連組織との会議や連絡会の際に全代会の代表として議長や委員長陣と共に出席するなどの仕事があり、これらを含め議長達の補佐という立場であると理解しています。この点で、副議長が1年だと昨年から継続している課題について何も知らない状態であるため、円滑に対応はできません。例えば昨年大学が行ったコロナ対策や、雙峰祭のオンライン企画の詳細について私はほとんど知りません。

これについての対処法ですが、実体験でないと分からない事は分からないと認め、それについて自分が手を出すことは絶対にしない、ということが挙げられます。副議長に立候補しているわけですので、良くも悪くも就任後には議長をはじめ各委員会の皆さんの補佐、あるいは裏方に徹させてもらいます。議長団は常に何かを先導する立場ではなく、全体を俯瞰する立場にあるので、今自分が所属する調査委員会だけでなく全委員会の状況について常に把握し、各委員会や議長が円滑に計画・決定に移ることができるように情報収集や連絡などを援助したいと考えています。それらの仕事を通して、経験を積むことができればと思っています。また、任期は1年あるため、後半はいつまでも初心者気分を引きずらず、仕事一つ一つに計画性を持って経験不足を補っていきたいと思います。

これらを踏まえた上で副議長に1年が就くことの利点を2個挙げると、議長団の中で違う学年と行動ができる事と、次年度以降を見据えた長期的な活動ができる事です。まず1つ目ですが、当然ですが学年によって経験は全く異なり、それにつれて価値判断の基準も大きく変わります。また、大学の交流関係は主に同学年で形成されています。全代会は複数学年で構成されているため、議長団を含め様々な部門に多くの学年がいる事で、意見の多様化が実現され、そこからよりよい全代会の仕事が生まれるのではないかと考えます。確かに多様化というと学類・性別・出身など、区分できる属性はもっとあると思いますが、それでも学年の多様性が一番重要だと考えています。その理由は交流関係が主に同学年で作られているからです。私自身、大学内では同学年の方がやり取りしやすいと感じているのですから、座長団の多くを占める1年生の皆さんの中には、副議長に1年生がいる事で議長団とやり取りしやすくなる人がいるでしょう。

また、これは私の在籍している社会学類の中の話ですが、1年生の間で全代会の知名度があまり高くないように見えます。そのため、私が全代会1年生の中心人物として活動すること

で全大会の知名度向上につながれば良いな、と考えています。それによって今後1年生が多く専門委員に立候補してくれればとも思っています。

2つ目の利点についてですが、基本的には1年生の方が大学に在籍する期間は長く、当然次年度以降も全大会として活動しやすいのは現1年生です。私はこの点を利用して、私個人で来年までに解決できそうな課題、あるいは今年度の活動で解決できなかった課題は、2カ年以上の長期計画を以て対処できるようにしたいと思います。また、交流関係についてですが、外部への呼びかけ等に1年生同士の関係性を利用したいと考えております。

ただし、当然ですが今年度解決すべき事は今年度中に解決すること、ノウハウの属人化の防止、何もかもを学年内に限定しないことを意識したいです。また、現在進行形で議論されている問題の対処が最優先である事は言うまでもありません。

長らくご清聴ありがとうございました。信任をよろしくお願いします。

◆山岸（社会）

全大会副議長に立候補した社会学類2年の山岸です。

私がやりたいことは主に二つ、議長の徹底的なサポートと教室申請の手続きをネット上で行えるようにすることです。

まず、議長団の業務としては委員会の通常業務に加えて主に学長、副学長との懇談会への参加やメール返信など全大会外部との交流などが挙げられます。ほかにも外部からの依頼に対応する必要があります。昨年度は食糧支援の案件を行っていたようです。

私の仕事はそれら全体を把握しながら管理していくことだと思います。

それぞれの委員会の活動を把握し、今どんな依頼が来ていて何に備えておくべきなのかを考えておく必要があります。

それらの業務への対応だけでなく、今年度は学園祭等も対面で実施される可能性は十分にあると考えています。その際には大学側との協議が重要になってくるでしょう。十分に学生側の意向を伝えられるよう尽力する所存です。

そのためにも冷静に全大会の中心に立てれば良いと思っております。

また、業務の効率化のためにも必要でない仕事は省いていく所存です。

二つ目の教室申請の手続きに関しまして、まず現在の手続きの方法について説明します。

教室申請は一か月前から一週間前までに行う必要があります。具体的な手続きとしては学生集会届という用紙に代表者欄、集会の内容、開催日時について記入し申請したい教室のあるエリア支援室に提出します。そして管理部長の承認を得て使用できるという流れになっております。

この手続きで面倒なところは用紙を記入し支援室に提出しに行かなければならないことと空いていなかった場合別の支援室をめぐる羽目になってしまうことです。

しかし、仮にネット上で空き教室の状況や、教室の申請が可能であればこれらの負担が一気に減ることになります。さらに一般の学生も教室が利用しやすくなるかとも思われます。情報部門や支援室らと提携して半年、遅くとも来年までに完成させたいと思っております。以上です。信任よろしく願いいたします。

◇森本(議長)

以上で立候補者の演説を終えたものとする。

それでは質疑応答に移りたいと思う。

立候補者である森さん、山岸さんに質問または意見がある人は、先ほどと同様に挙手をお願いする。私(森本)が宛てるので、宛てられた人は自身の学類と名前を伝え、「どちらへの質問なのか」、もしくは「二人への質問なのか」を明言した上で発言の方をお願いする。それでは今から 15 分間、質疑応答の時間にしたいと思う。質問・意見のある方がいたら、挙手の方をお願いする。

◆澁谷(地球学類)

森さんに対して質問がある。

演説の中で挙げていた「一年生であることがもたらすメリットとデメリット」は、具体例もあって分かり易く、学年に関係なく相応しい人間が全代会の議長団に加わるというのは良いと思う。

そこで質問がある。森さんの演説では、先ほど述べていた「一年生が議長団に加わることで発生する良い点と悪い点」という内容が中心だったと思うが、「一年生である」ということ以外に「森さんという人間」が議長団に加わることによってもたらし出すことが出来る、または自身のバックグラウンドを顧みて、もたらし出すことが出来得と考えられるものがあれば教えていただきたい。

◆森

「私(森)という人間が副議長となることによるメリット」だが、ここで証明することが出来るわけではないが、高校生の時には筑波大学での全代会のような組織に所属し、議長などを務めていた。そういった機会を得た見識を議長団でも活かしていければいいと思っている。この回答で良いか。

◆菊池(知識情報・図書館学類)

森さんと山岸さんの双方にそれぞれ質問がある。

まずは森さん。全代会の認知向上の為に森さんが先頭となって努めていきたいという話だったが、具体的にはどのようなツールを用いて、どのような策を講じていきたいと考えているのか。

◆森(社会)

私個人が出来ることとしては、対面で交流する機会が毎日あるわけではない現在の状況を踏まえて、LINE や Twitter などの SNS が主なツールになると考えている。これらを通して具体的な仕事内容などを発信していき、全代会という組織を学生に認知してもらえればと思う。

また、これらの SNS のフォロワーは一年生が多いため、ツールとして利用すれば一年生にも全代会の情報が伝わりやすいと考えられる。

◆菊池(知識)

続いて山岸さんに質問がある。

「無駄な仕事を減らしたい」という話の中で「教室申請のオンライン化」があったが、それ以外に「仕事の効率化」の為に出来ることがあれば、具体的に挙げてほしい。

◆山岸(社会)

私は総務委員会に所属しているので、総務委員会の業務を把握しているが、その中で「教室申請のオンライン化」が「仕事の効率化」を最も進めることが出来るのではと考えた。

その他の委員会の業務についてはまだ完全には把握できていない。なので、一年生や委員長陣の方から「これは必要ないのでは？」と思われる業務があれば、私の方に直接連絡をもらい、相談しながら減らしていければいいと考えている。

この回答で良いか。

◆菊池(知識)

大丈夫。

◆沼田(物理学類)

山岸さんに質問がある。

「教室申請のオンライン化」についてだが、この一年間の大学生活の中で「教室申請が面倒くさい」や「オンライン化してほしい」という声を色々なところから聞いていたので、個人的にも興味がある。

先ほど話していたのは期限、「任期の間にやる」という内容だったと思うが、「教室申請のオンライン化」について具体的に決まっていること、例えば「学生からどのような範囲でアンケートを取ろうと考えているのか」や「どのような人とどのような機会に話をしようと考えているのか」というように、構想段階でもいいので、あればもう少し教えてもらいたい。

◆山岸(社会)

「教室申請のオンライン化」に関する具体的な方法として、まずは「要望書の提出し、本会議にかける」という形が一番現実的だと思っている。

それ以外のことに關しては、まだ把握しきれていないのが現状である。

質問が曖昧だった為になんとも答えづらいが、無駄な業務に關する連絡については、今日の晩からでも Teams の方で直接私に DM を送ってもらえればいいと思う。

それ以外に關してはなんとも答えることが出来ない。

◆沼田(物理)

「まず要望書を提出する」という話だが、要望書を提出する上でも必要な資料があると思う。

そのような資料の収集などに關しては、これからすぐに動き出すということで間違いないか。

◆山岸(社会)

間違いない。総務の教室申請の担当の人と相談しながら、要望書を作製しようと思っている。これで良いか。

◆沼田(物理)

大丈夫だ。期待している。

◆後藤(日本語・日本文化学類)

森候補へ。副議長になるにあたって取り組みたい具体的な問題などはあるか。

◆森(社会学)

全大会構成員になってから日が浅いため、具体的な内容についての回答は差し控える。

◆篠崎(日日)

両候補へ。副議長候補の両名はともに社会学類の座長団である。社会学類座長団が手薄になることで何か弊害はないか。

◆森(社会学)

残った副座長の協力もしていただくが、基本的に学類代表としての業務と議長団の業務は両立できると考えている。

◆山岸(社会学)

学類代表としての業務は基本的に投票行為に限られるので問題はないと考えられる。

◆竹ノ内(化学類)

森候補へ。対面活動が制限されている中で 1 年生同士の関係性強化をどう推し進めていくか。

◆森(社会学)

SNS を用いての交流で関係性を継続していく。その中で意見を募ったりすることは可能だと考えられる。

◆山口(応用理工学類)

まず森候補へ。経験の浅さがゆえに裏方に徹するという発言があったが、2 年生と同質の裏方作業ができない中で具体的にどのような活動ができると思うか。

◆森(社会学)

全く同質の作業ができないのは事実。年間を通して資料や意見を集約することで任期中もできることを随時増やし、(新入生なりの視点で)フィードバックしたいと思う。

◆山口(応理)

続いて山岸候補へ。教室申請の簡略化について、以前の本会議において「学生団体の活動に係る諸手続きのデジタル化に関する提言」という内容で類似した議案が議論され、承認されたが大きな動きにはなっていない。どのように簡略化を実現していくか。

◆山岸(社会学)

ご質問のあった要望書については教室申請に限った問題ではないので、直接は関連しないと思っている。副議長になれば副学長などと直接対話できる機会が増えるので、少しずつ話題に出して強力に推し進めたい。

採決

◇森本(議長)

まず山岸くんの結果からお伝えする。

・山岸

信任 53 不信任 2 保留 7 白票 2

信任が座長団の過半数以上であるので、山岸を令和 4 年度副議長に選出されたことを報告する。

・森望

信任 37 不信任 13 保留 11 白票 3

信任が座長団の過半数以下であるので、森を令和4年度副議長に選出されないことを報告する。

◇森本(議長)

森さんに関して、令和4年度議長団選挙について書かれているように、不信任が過半数の場合は今年度の議長団選挙へ立候補できない。また学長決定により、構成員の過半数の得票をそれぞれ議長及び副議長とする。構成員の過半数である40に到達していないため、森さんは今回の選挙において信任とは認められない。一方で不信任が過半数というわけでもないため、今年度の議長団へ立候補できないわけでもない。

副議長として決定した方が未だ1名のため、もう一度副議長になる方の立候補を募る。もうひとりの副議長候補として立候補される方を今から募集する。ここで出なければ来週の本会議に持ち越しとなる。立候補は榎本くん(体育専門学群)、他は無いものと認める。榎本くんより本日はなく来週演説を行いたいと要望があったため、来週、5月18日18:30より対面かオンラインのみかは未定だが本会議を行う。そこで2人目の副議長候補の選挙を行う。その際再度立候補者を募る。

本日の議題である議長団選挙は来週に持ち越しという形で終了する。委員会報告へ入る。各委員長は報告をお願いします。

○総務委員会 事務部門

・本会議の教室申請と準備を行った。

○総務委員会 情報部門

・特にない。

○学内行事委員会

・昨日オンラインでミーティングを行った。内容は自己紹介等である。

・5月24日に学園祭実行委員会から提出される第一次学園祭実行計画書の赤入れを行う。

○教育環境委員会

・今週金曜日の5月13日に今年度初めてのミーティングを行う。

○生活環境委員会

・昨日初回ミーティングを行った。内容は自己紹介等と福利厚生員会についてである。

・福利厚生委員会は食堂や丸善とのやり取りを行い、生環からの7人を含めた計9人で構成される。詳細はTeamsで連絡する。

○調査委員会

- ・この後ミーティングを行う。

○広報委員会

- ・広報誌『Campus』の宿舎祭特別号を製作中である。
- ・Twitter で研修会や会議告知等を行った。

諸連絡

○総務委員会 情報部門

- ・情報部門の人は会議の後、残るように。

○ 総務委員会 事務部門

- ・事務部門の人もこのあと話したいことがあるので、会議の片づけが終わり次第、集まるように。また後ほどこの本会議の議事録を作成する。

◆宮内(医学類)

- ・医学類クラス代表者会議の再建を考えている。現在、メンバーの一新と組織体制の考案を行っている。本格的な始動は6月ころになる予定だ。ただ、かなり初歩的な段階から組み直していくことになるので、協力をお願いする。
- ・また質問がある。来週の本会議では有効投票数を数え直すのか。それとも本日の本会議の有効投票数と同じで行うのか。

◇森本(議長)

新しく設定し直す方向で考えている。

◆佐藤(副議長)

今年、企画・戦略特別委員会を新しく立てようと思っている。全代会の中の、いろいろな片付いていない問題を解決していこうと考えている。具体的には全代会組織の改革や広報の拡大などの大きな問題に取り組んでいく。六月を目途に設立を予定している。

◆河野(人文)

いろいろご迷惑をおかけすることもあると思うが、これまでの全代会の経験を活かして精一杯努めていく。みなさんのご協力をお願いする。

◆山岸(社学)

投票を感謝する。質問が沢山来ていたことは、みなさんにやる気があると解釈する。よろしく願います。

以上 総務委員会 山岸史和 作成